2023 年度交換留学(派遣) 報告書 ①

所属学科／研究科	国文学科
留学先国	韓国
留学先協定校	韓国伝統文化大学校
留学期間	約 10 ヶ月
留学時学年	3 回生
留学先での所属	伝統建築学科
渡航日／発着便	2023 年 2 月 27 日 関空→仁川
帰国日／発着便	2023 年 12 月 17 日 仁川→関空
留学先で取得した単位数合計	21 単位
本学で認定された単位数合計 (※30 単位上限)	21 単位
海外留学助成金	20 万円 (前期 10 万円+後期 10 万円)
検定試験合格者助成金	—
備考	

留学成果レポート

■なぜ、派遣先国・派遣先大学への留学を希望しましたか？

当初は、韓国語を中心に学ぶ大学を希望していましたが、奈良大学で学んでいる国文学科ではない、専門外の分野を学ぶことで、視野を広く持つことが出来ると思い希望しました。

■派遣先大学で、どのようなことを学習・研究しましたか？

東洋建築や韓国の近現代建築、都市計画、建築計画について学びました。実技というよりは、主に歴史を学び、建築学を様々な視点からとらえることが出来るような学習、研究をしました。

■留学するにあたっての目標は何でしたか？ 目標は達成できましたか？

語学上達と、奈良大学で学んでいる国文学科と異なる分野の建築について学ぶことで、視野を広げる 2 つの目標を持ち留学をしました。目標は 2 つとも達成出来ました。
語学については、日本語が上手な韓国の友達に教えてもらったり、授業で分からない単語を自身で調べ、努力して学んだことが上達につながりました。建築の授業については伝統的な建築物や文化を学び、小学校から大学まで、今まで学んだことの無い、新しい分野に触れることが出来ました。

■派遣先国・大学で、どのような国際交流を行い、どのような活動をしましたか？

語学堂があり、そこでは大学院の留学生も共に授業を受けました。休日には、各国の留学生とそれぞれの国の手料理を互いにふるまったり、一緒に勉強をしました。
母国語は異なりますが、韓国語という共通語で、たくさん、楽しくコミュニケーションをとりました。

■留学中、どんな困難や苦労がありましたか？またその困難をどう乗り越えましたか？

留学当初は日本人留学生が自身のみだったので、日常生活・学業等が非常に困難でした。一番の困難は言語の壁でした。語学留学ではなかったので、韓国語が出来ることを前提に授業を受け、発表、レポート作成、試験を受ける必要がありました。
発表では原稿を作成し、質疑応答に対応出来るように予想質問を考え、現地の学生についていけるよう毎日一生懸命勉強し頑張りました。とにかく必死に勉強することで、困難を乗り越えました。

■留学前と比べて「学習面」で成長できたと思う点はなんですか？

語学の上達が一番です。「こんにちは」と「ありがとう」しか言えない状態で留学をしたので、日常会話ができるようになってからも、授業に出てくる単語は難しかったです。そのため不十分な語学力は夏休みに一生懸命勉強をしました。努力の結果、後期授業が始まる頃には、前期とは段違いに成長していました。授業は一方的に受講するのみではなく、自分で調べ考察し発表した事で、理解力が向上しました。伝統建築学科の学生の多くは、その道のプロになることを目標にしていたため、非常に意識も高く、レベルの高い学習が出来ました。

■留学前と比べて「人物面」で成長できたと思う点はなんですか？

一番は精神面です。コロナが収束し、ようやく再開した留学だったため、コロナ前の情報から変更が多くあり、その都度臨機応変な対応が必要となり、緊張する事もありました。留学当初は他に日本人がいなかった為、助けを求めても上手くコミュニケーションが取れず、常に「自分で何とかしなくては」という気持ちでした。留学前は周囲を気にしすぎて、自分の気持ちを伝えたり、やりたい事を優先できない性格でしたが、留学後は、自分が譲れない部分については優先し、主張が出来るようになりました。

■今後、この留学経験をどう生かしていこうと考えていますか？

留學生活は辛いことが沢山ありましたが、その分新しい自分に沢山出会えました。「私ってこんなことも出来るんだ！」という場面が多々あり、その度に自分の可能性を発見することが出来ました。この経験は今後の人生、直近では就職活動、社会人になった時に生かすことが出来ると考えています。留学前は不安であった将来も、留学経験自体が自信になり、成長した語学力、人物面で、今後も立ちはだかる困難に生かしていけると考えています。

■留学は楽しかったですか？留学して良かったですか？留学を終えての感想を

正直に言うと、地獄のように辛く苦しい事ばかりでした。楽しかったことより、発表・試験に追われ、食事もドライヤーも勉強も泣きながらしていた毎日が一番思い出します。1人では何も出来なかった私が、毎日1人だったので辛かったです。しかし、韓国語が話せるようになると楽しい事ばかりでした。一番良かった事は、現地の学生は親切で温かく、本当に友達に恵まれた事です。自分が閉じこもっていた殻を破った後は、嬉しい事、感動する事、楽しい事で溢れていました。思い描いていた留學生活ばかりではありませんでしたが、自分の人生において一番大きな挑戦であり、自信を持って「留学して良かった」と心から言えます。留学先で出会った仲間や先生方、支えてくれた家族、友達、事務局の方々に感謝の気持ちで一杯です。

■中国・韓国及び派遣先大学の印象は？

奈良大学に比べたら広い敷地で、学生寮、カフェ、コンビニなどが充実していました。学生が少ないので学生同士はもちろん先生方とも距離が近く、みんなとても勉強熱心でした。日本語が話せる、又は話せなくても聞くことはできる学生が各学科に一人はいました。

■留学して一番困った・大変だったことは？

韓国語が理解できなかったこと。日本人留学生が誰もいなかったこと。

■留学中の楽しかった・嬉しかったできごとは？

友達の実家に泊まりに行ったり、遊園地に行ったりしたことが楽しかったです。また、12月は雪が積もるほど降るので、学科の先輩や友達とみんなで本気の雪合戦をしたことは今でも良い思い出です。

■留学先に持ってきて良かった・持ってくれば良かったと思ったものは？

【持ってきて良かったもの】

・お茶漬け、味噌汁などの日本食

(理由)

食堂もコンビニも基本的に辛いメニューや食べ物しかないので、辛いものが苦手な方は必須です。また単純に日本食が恋しくなります。

・iPad

(理由)

必須ではありませんが、授業の資料は基本的に PDF で配られるので iPad があると直接書き込めるし、資料整理がとても楽でした。現地の学生のほとんどがノートよりも iPad で授業を受けていましたし、パソコンだと限界がある気がします。

■留学中のお金の管理はどうしていましたか？

まず空港で15～20万円ほど換金して、大学近くの銀行でキャッシュカードを作りました。キャッシュカードがない間はクレジットカードで過ごしていましたが、たまに使えないお店があるので、レートは悪いですがはじめの方はなるべく空港で換金することをおすすめします。私は15万円ほど換金していましたが、すぐに足りなくなりました。

■派遣先大学での生活環境はどうでしたか？

学生寮でルームメイトと二人で部屋を使いました。室内にシャワーとトイレ、冷蔵庫があり、共有ルームにウォーターサーバーや電子レンジがありました。オンドルがあるので冬は半袖で過ごせるほど、室内が暖かくなります。洗濯室があり、洗濯機は共有です。生活面において日本の暮らしとのギャップは特になく、ルームメイトも日本語は話せませんがとても親切だったので、ストレスなく生活できました。

■派遣先大学での課外活動はどんなものがありましたか？

体育会系よりも文化系のサークルが充実していました。バドミントンサークルでは学期末に、学科ごとにチームをつくった大会がありました。文化祭は学科ごとに沢山、出店していました。

■どのような国籍の留学生がいましたか？

ロシア・中国・日本人

■渡航前にすべきこと・やっておいたほうが良いことは？

韓国語は日常会話レベルまでできていると、現地での選択の幅が広がります。私のように何も分からない状態でも何とかかなりでしたが、最低限ハングルは読めないと前期がととても大変です。

■渡航後にすべきこと・やっておいたほうが良いことは？

韓国語の勉強の継続。留学先で出来た友達との縁は一生ものなので、ぜひ連絡はし続けてください。

■今後の派遣留学生にむけてアドバイスを

留学当初は不安な毎日が続くと思いますが、先生方も学生もみんな本当に親切で優しい方ですので、ぜひ積極的にコミュニケーションをとってください！韓国語は話せなくても理解できなくても、勉強しながら生活すれば大丈夫です。しかし、ある程度知識が無いと自然と身につくということは絶対にないので、夏休み中も韓国語を勉強して下さい。その勉強量で後期が変わります。中間考査・期末考査にはテストだけでなく、発表やレポートもあります。授業資料はその日に翻訳して、週末に覚えるようにすれば完璧です。しかし、莫大な量で発表資料も作らないといけないので、日本語ができる友達に協力を求めてください。テストや発表・レポートについての詳細は、口頭で説明される先生も多いので、授業は録音することをオススメします。そして何よりも大事なことは心と体の健康です。慣れない環境で生活をするだけでも疲れるのに、常に頭を使って韓国語でコミュニケーションを取らなければならないので、定期的に休める時間を確保してください。大変なことが多いですが、絶対に留学してよかったと思える日がくるので、無理せず、留学生生活を存分に楽しんで下さい。応援しています！

留学体験記

留学初日のことは今でも鮮明に覚えています。留学先に着いてまず、他の留学生と交流をしたのですが、みんな韓国語が上手で、私だけ自己紹介がまともにならず、先生方もここまで話せないのかとびっくりして笑ってました。自己紹介が終わって寮に向かうとき、スーツケースや重い手荷物を持っている私を見て、通りすがりの学生たちが手伝ってくれました。韓国語が何ひとつ分からない私は道中何か話しかけてくれてもカムサムニダしか言えませんでした(笑)。初日は語学力のなさに絶望をして、この先やっていけるのかという不安にかられ、部屋に着いた瞬間友達に電話をして大号泣しました。

留学中一番大変で、精神的にきつかったことは発表です。私の所属する建築学科はとにかく発表が多い学科で有名で、全ての授業に発表がありました。初めての発表は、一生懸命準備したのに韓国語もボロボロでした。それ以降準備期間はストレスで毎日泣いていました。しかし、後期はこうならないように、夏休みに韓国語を死に物狂いで勉強して、後期は自信を持って発表することが出来るようになりました。そこから、本来の明るい自分を取り戻し、先輩や友達から「1 学期は死んだような顔しかしてなかったから、こんな明るい人だとは思わなかったよ」と言われ、留学当初の私とのギャップに驚いていたのを今でも覚えています。

韓国での留学経験は、今までの人生で、一番自分自身の成長を感じることが出来ました。思い描いていた留学生活ばかりではありませんでしたが、苦しくつらい環境の中でも、自分は頑張れるんだと分かったことが留学で得た財産となり、確実にこの先の人生を支えてくれると信じています。